

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ

外交と国際交流のはざままで

(一社)山陰インバウンド機構 事務局次長 津森 仁 (95年ソウル派遣者)

「島根県との姉妹交流協定を破棄する。」、1989年に姉妹交流協定を締結した韓国慶尚北道から、2005年3月に島根県あてに送られてきたFAXです。

島根県議会で「竹島の日を定める条例」の可決後すぐのことでした。

一小自治体の条例制定でしたが、日韓両国政府を巻き込んで大きな波紋を呼びました。

ちょうど同年は日韓国交正常化40年を迎えた年でもあり、両国のメディアで大きく取り上げられたことで、日韓各地で計画されていた数多くの交流事業が中止され、賛成、反対、応援、非難など、さまざまな意見が国内外から県庁に寄せられました。

ご存知の方は少ないでしょうが、竹島、韓国が主張するところの独島は、慶尚北道の行政区域であり、領土に関する両国の主張対立がある中での島根県と慶尚北道との姉妹交流協定締結は画期的なことだったと思います。

協定を締結した89年の韓国は、前年88年にソウルオリンピックを終えて先進国入りを目指していた時期であり、日本側も技術および経済協力に積極的で、大変良好な関係のなかでの交流スタートだったと思われます。

締結後は、行政職員や学校教員の相互派遣勤務、職員や幅広い年齢の住民同士によるスポーツや芸術、自然環境、歴史文化に関する交流、竹島周辺での水産物保護の協議など大変幅広い交流活動が行われました。

私自身も、クレアソウルでの勤務終了から一年後の98年から2年間、慶尚北道庁で勤務し、まさに現場で交流事業のサポートを行いました。



韓国大使館主催 韓国駐在・留学経験者交流会に参加

は復活しておらず、慰安婦問題、徴用工判決、火器管制レーダー照射事件など、感情論含め日韓関係は課題が山積していますが、そのような中でも継続している民間の交流事業について、裏方として手伝っています。

韓国との交流に関する意見はさまざまですが、引越してできない隣国の住民同士の相互理解は重要と思っています。そして、このような難しい関係であるときこそ、事業の調整や通訳、人脈の活用など、クレアソウルなど韓国への派遣経験のある職員が果たすべき役割は大きいと感じています。

また、入管法の改正により、今後、地域における在住外国人の大幅な増加が見込まれるなか、クレアの重要性は確実に高まるものと思われます。縁あってクレアで勤務した経験は大変貴重であり、OB職員として、多文化共生社会の実現に向け、微力ながら尽力する所存です。



(島根) 県民が毎年出演する大邱国際ジャズフェスティバル(に通訳として参加)

プロフィール

昭和42年4月28日 島根県松江市生まれ
 平成3年4月 島根県庁入庁
 6年4月 自治体国際化協会業務部業務課
 7年4月 // ソウル事務所所長補佐
 9年4月 島根県総務部国際課
 10年4月 韓国慶尚北道国際通商課
 13年4月 島根県商工労働部商工政策課
 以降 観光、貿易、地域振興、国際交流業務を担当
 29年4月 (一社)山陰インバウンド機構に派遣
 現在2年目